

(令和3年8月試験研究業務月報)

試験研究課題：新農薬・資材効果確認試験

(けい酸加里による「京の輝き」の収量・品質の向上技術の開発)

研 究

水稻の根系の活性を調査

当所では、「京の輝き」のさらなる生産振興を図るため、けい酸加里による高温登熟耐性の向上効果を確認する試験を実施しています。

「良く穫れるイネは、朝、葉先につく水滴が大きい」という経験則から、根の働きに着目し、根系の活性に係る調査を行いました。

8月19、20日に、葉先からの溢泌液量と稲株の切断面からの出液量を測る方法で、根による能動的な吸水量を測定しました。

今後は、収量、品質調査の結果と合わせて、処理による登熟向上効果を評価・検討することとしています。



止め葉（穂直下の葉）から夜間に排出される溢泌液を試験管に回収し、その量を測定する。



稲株を地上10cmで切断し、60分間に茎からの出液を脱脂綿に回収し、その量を測定する。